

～イルクーツク～ ～イルクーツク～



イルクーツクは「イルクート川の町」という意味の名で、東シベリアを代表する古都。17世紀に帝政ロシアの命を受けたコサックの一隊が原住民のブリヤート族から毛皮を徴収するための冬季屯営地を築いたのが町の始まりです。1803年にはシベリア総督府が設置され、東部シベリアの行政の中心となり、また中国やモンゴルとの通商の拠点として繁栄しました。ツァーリ（ロシア皇帝）の専制と農奴制に反対して立ち上がった青年貴族将校らによる「デカブリストの乱」（※1825年12月/サンクトペテルブルク）に加わり、鎮圧された後にはイルクーツクへ流刑になった人たちがいます。当時、辺境の町でありながら帝都サンクトペテルブルクに似た街並みを誇るのは、都から流刑になった青年貴族らの存在が大きいと伝えられています。町にはモンゴル語通訳養成所、日本語学校、航海・測量学校などの教育施設が早くから充実し、現在では数多くの研究機関、高等教育機関が設けられ、シベリアの学術基地の観があります。18世紀に千島や沿海州に漂着した日本人漁民が滞留した町でもあり、日本との交流は古く、金沢市とは姉妹都市となっています。

○キーロフ広場 Ploshchad Kirova

市庁舎に面した町の中心にあります。広場の中央には美しい噴水があり、アンガラ川近くに第二次大戦の英雄を偲ぶ「永遠の火」が燃えている。アンガラホテルも目の前にあります。



キーロフ広場



スパスカヤ教会

○スパスカヤ教会 Church of Saviour

キーロフ広場に建つ美しい教会。内部は郷土史博物館の支部となっており展示がされています。

○ズナメンスキー修道院 Znamensky Monastery

ウシコフカ川をわたってすぐ、金色に輝くドームが目をひきます。イルクーツクに現存する石造教会のなかでスパスカヤ、クレストワストビジェンスカヤ、トロイツカヤなどとともに古いもので、構内には 18 世紀後半の航海家シェリホフや、デカプリストの乱で追放された貴族たちの墓が残っています。



ズナメンスキー修道院



郷土誌博物館

○郷土誌博物館 Irkursk Museum

アンガラ川沿いの公園近くにあり、東シベリア原住民のヤクート族、ブリヤートモンゴル族、エベンキ族などの生活用品を展示しています。ほかにシベリアに流刑されたデカプリストに関する資料も集められています。バイカル湖の動植物などの自然関係は、バリシャーヤ通りにある分館に展示されています。

○トルベツコイの家 Trubetskoy house

帝政に対して反乱を起こしたサンクトペテルブルクの貴族たち（デカプリスト）はイルクーツクに流刑されました。そのうちの一人、トルベツコイ公爵の住居です。当時の木造建築の様式がよくわかり資料を展示しています。



<イルクーツク郊外>

○シベリア木造建築博物館 Museum of Wooden Architecture

イルクーツク市内からバスで30分。バイカル街道の途中にある野外博物館。昔のシベリア地方の農村のイズバと呼ばれる農家やユニークな民具を見ることができます。ダム建設によって水没したブラーツク、ウスチイリムスク地区からは古い木造建築が移築され、往時の村の姿をしのばせています。古い家屋の中には300年以上も前の建築も少なくありません。



○バイカル湖 Lake Baikal

「バイカル湖は謎だ。シベリア人たちがこれを湖ではなく、海とたとえるのも無理はない」と書いたのはかのチェーホフです。「聖なるバイカル」は最深部1,620mで世界一、周囲は632km、湖水面積31,500平方kmで全世界の淡水量の5分の1を有しています。335もの河川が流入し、この湖水の全水量が入れ替わるには332年かかるといわれています。湖から流れ出ているのは、名だたる急流で知られる「シベリア美女」アンガラ川ただひとつ。

バイカルの水は、夏でも冷たく、摂氏8℃の水温を越すことはありません。それは太陽で暖められた表層の水がアンガラ川へ流れ出るため、湖底の冷水はアンガラ河口の底にある岩礁が流出を妨げているからです。バイカルの透明度は世界一といわれ、春先、湖面が氷の鎧から解き放たれた頃には水深40mまでの透明度が確認されています。

バイカルには、淡水湖にもかかわらず海にしか棲息しない動物がおり、世界中でここにしかいない生物が180種以上もいます。(鱗がなく薔薇色の体で、ほとんどが脂肪できている深水魚ガラシャミン、バイカルアザラシなど。)

バイカル湖には22の島があり、最も大きい島がオリホン島。湖のほぼ中央に位置し、730平方kmの広さで、主に漁師たちが住んでいます。

バイカルとはトルコ語の「豊富」を意味し、バイカル湖はすなわち魚の豊富な湖であるといわれています。謎の湖はまた、そこに住む人々にとっての恵みの湖でもあります。



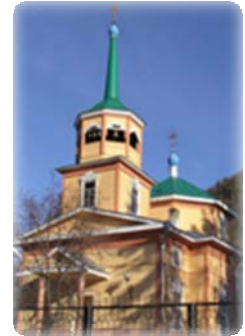
○バイカル湖沼学研究所（バイカル博物館） Baikal Limnological Institute

バイカル湖付近に生息する珍しい動植物を研究するロシア科学アカデミーの研究所。湖の南西岸リストビヤンカにあります。研究用の特別の科学調査団をもっていて、広大な湖を隈なく調べています。附属施設に博物館があり一般にむけて公開展示しています。



○バイカルアザラシの群棲地 Baikal seal

ウニカイ諸島沿岸の岩場。ニエルバと呼ばれるバイカルアザラシが群れをなして生息しています。



○ニコライ教会 St.Nicholas Church

リストビヤンカ村にあるニコライ教会は、1864年に建設された木造の教会。緑色の丸屋根が印象的。

○オリホン島 Olkhon Island

長さ7km・幅20kmになるバイカル湖最大の島。高さ1,300mのイジマ山という頂きをもつ山脈と5つの湖があります。オリホン島にはキャンプ場もあり宿泊可能です。

